

# 第5章 教師付き学習と教師なし 学習

國井慎也

# コイン投げ問題

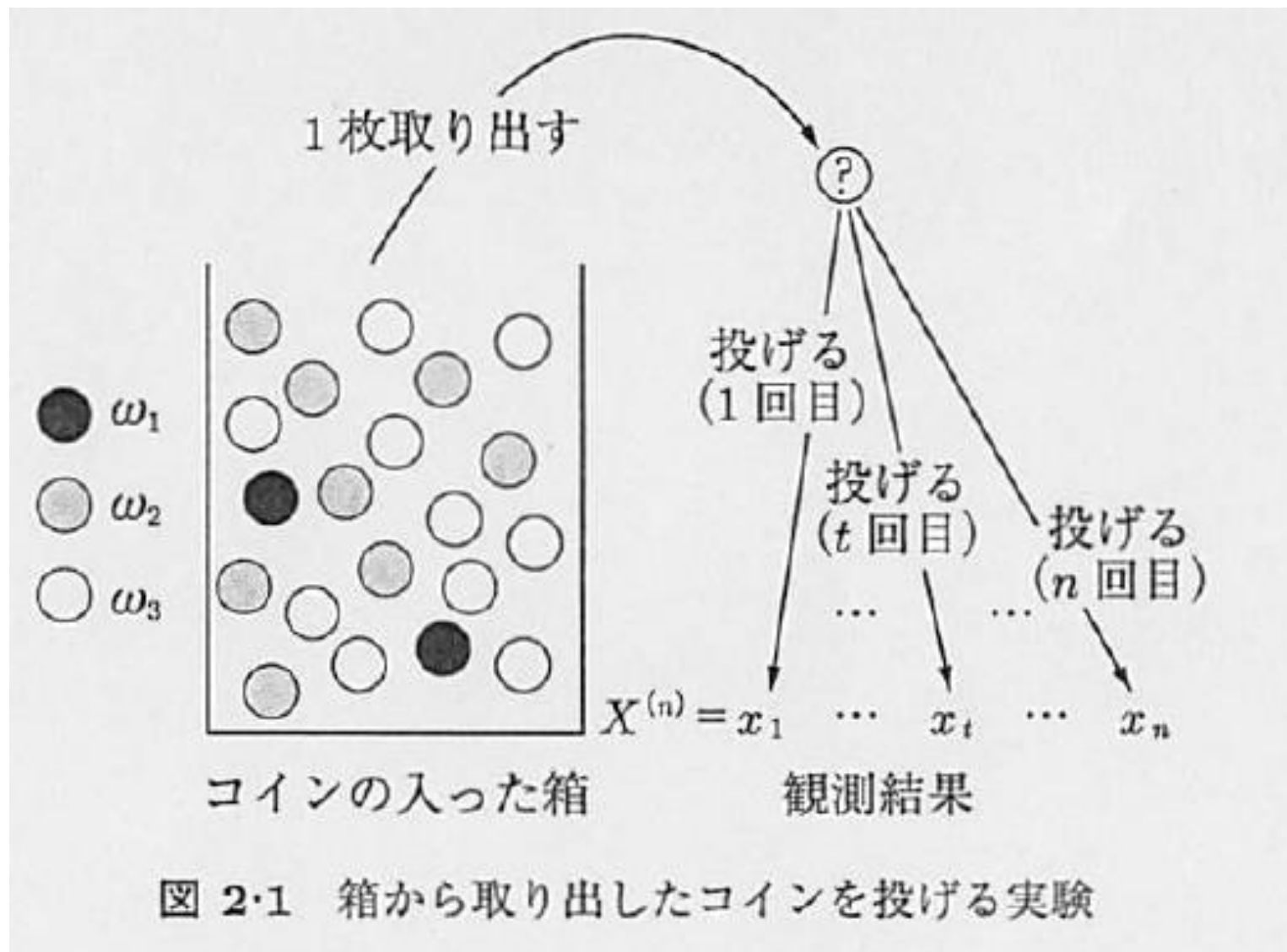


図 2.1 箱から取り出したコインを投げる実験

# サイコロ投げ問題

- サイコロの問題

- サイコロの種類  $\omega_1, \dots, \omega_c$

- 含有率  $\pi_1, \dots, \pi_c$

- サイコロ $\omega_i$ を投げた時 $k$ の目 $v_k$ が出る確率  $\theta_{ik} = P(v_k | \omega_i)$

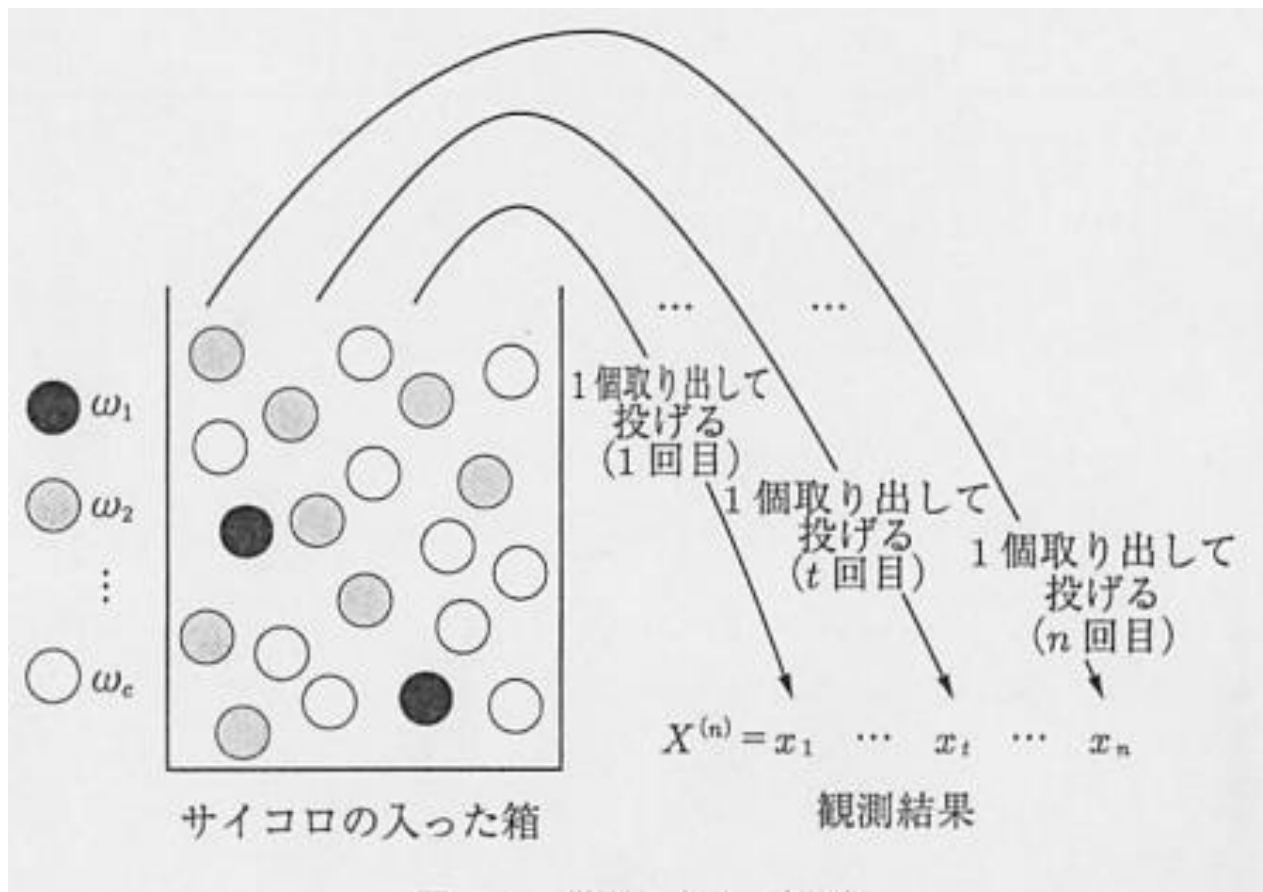
- サイコロ $\omega_i$ を $n$ 回投げて観測結果 $X^{(n)}$ が得られる確率

$$P(X^{(n)} | \omega_i) = \prod_{k=1}^m \theta_{ik}^{r_k}$$

- ベイズ識別関数

$$g_i(X^{(n)}) = P(\omega_i) * P(X^{(n)} | \omega_i) = \pi_i \prod_{k=1}^m \theta_{ik}^{r_k}$$

# サイコロ投げ問題



# サイコロ投げ問題

- 観測結果  $X$

$$X = x_1 x_2 \dots x_t \dots x_n$$

$$x_t \in \{v_1, v_2, \dots, v_k\}$$

- 結果に対するサイコロの種類  $S$

$$S = s_1 s_2 \dots s_t \dots s_n$$

$$s_t \in \{\omega_1, \omega_2, \dots, \omega_c\}$$

- サイコロの種類系列  $s$  がある場合
  - 教師付き学習
  - 系列  $s$  教師信号
  - 結果  $x$  と系列  $s$  を完全データ
- 系列  $s$  がない場合
  - 教師なし学習
  - 結果  $x$  のみを不完全データ

# 最尤推定のための数学

- 定理5.1

- $n$ 個の定数 $\omega_1, \omega_2, \dots, \omega_n$ がある。ここで、 $n$ 個の変数 $x_1 x_2 \dots x_n$  ( $0 \leq x_n \leq 1$ )が、拘束条件

$$\sum_{i=1}^n x_i = 1$$

を満たす。このとき、

$$f(x_1, \dots, x_n) = \sum_{i=1}^n \omega_i \log x_n$$

を最大にする $x_i$ は

$$x_i = \frac{\omega_i}{\sum_{k=1}^n \omega_k}$$

# 教師あり学習

- サイコロの問題

- サイコロの種類  $\omega_1, \dots, \omega_c$

- 含有率  $\pi_1, \dots, \pi_c$

- サイコロ $\omega_i$ を投げた時 $k$ の目 $v_k$ が出る確率  $\theta_{ik} = P(v_k|\omega_i)$

- 系列 $X = x_1 x_2 \dots x_t \dots x_n$

- $S = s_1 s_2 \dots s_t \dots s_n$

- パラメータ推定

- $\hat{\theta} = \operatorname{argmax}_{\theta} \{\log P(X, S)\}$

- $\log P(X, S) = \log P(S) + \log(X|S)$

- $= \sum_{t=1}^n \log P(s_t) + \sum_{t=1}^n \log P(x_t|s_t)$

# パラメータ $\pi_i$ の推定

- 第一項

$P(s_t)$ は $P(w_1), \dots, P(w_c)$ つまり $\pi_1, \dots, \pi_c$

$$\sum_{t=1}^n \log P(s_t) = \sum_{k=i}^c n_i \log \pi_i$$

$n_i$ : サイコロ $w_i$ を取り出した回数

定理5.1より、 $\pi_i$ の推定値は

$$\hat{\pi}_i = \frac{n_i}{\sum_{j=1}^c n_j} = \frac{n_i}{n}$$

相対頻度を求めている

# パラメータ $\theta_{ik}$ の推定

- 第二項目

$$\sum_{t=1}^n \log P(x_t | s_t) = \sum_{i=1}^c \sum_{k=1}^m n_{ik} \log \theta_{ik}$$

$\theta_{ik}$ :サイコロ $w_i$ の観測結果が $v_k$ である確率

$n_{ik}$ :サイコロ $w_i$ の観測結果が $v_k$ だった回数

この式を最大化するには、

$$\sum_{k=1}^m n_{ik} \log \theta_{ik}$$

定理5.1より

$$\hat{\theta}_{ik} = \frac{n_{ik}}{\sum_{j=1}^m n_{ij}} = \frac{n_{ik}}{n_i}$$

# 教師なし学習

- サイコロの問題

- サイコロの種類  $\omega_1, \dots, \omega_c$

- 含有率  $\pi_1, \dots, \pi_c$

- 観測結果系列  $X = x_1 x_2 \dots x_t \dots x_n$

- 全体の観測結果の確率

- $P(X) = P(x_1, x_2, \dots, x_t, \dots, x_n) = \prod_{t=1}^n P(x_t)$

- $\log P(X) = \sum_{t=1}^n \log P(x_t)$

- $= \sum_{k=1}^m r_k \log P(v_k)$

$r_k$ : 観測結果  $X$  のうち  $v_k$  が出た回数

- 定理5.1より

- $P(v_k) = \frac{r_k}{\sum_{l=1}^m r_l} = \frac{r_k}{n} = \sum_{i=1}^c \pi_i \theta_{ik}$

# パラメータ $\pi_i$ の推定

- ラグランジュ未定乗数法

- $L \equiv \log P(X) - \lambda(\sum_{i=1}^c \pi_i - 1)$

- $\frac{\partial L}{\partial \pi_i} = 0$

- 推定値

- $\hat{\pi}_i = \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n P(\omega_i | x_t) = \frac{1}{n} \sum_{k=1}^m r_k * P(\omega_i | v_t)$

- $= \frac{\text{投げたサイコロが}\omega_i\text{であった回数の期待値}}{\text{サイコロを投げた回数}}$

# パラメータ $\theta_{ik}$ の推定

- ラグランジュ未定乗数法

- $- L \equiv \log P(X) - \lambda(\sum_{k=1}^m \sum_{i=1}^c \pi_i * \theta_{ik} - 1)$

- $-\frac{\partial L}{\partial \theta_i} = 0$

- 推定値

- $-\hat{\theta}_{ik} = \frac{r_k * P(\omega_i | v_k)}{\sum_{l=1}^m r_l * P(\omega_i | v_l)} =$

観測結果が $v_k$ で、投げたサイコロが $\omega_i$ であった回数の期待値  
投げたサイコロが $\omega_i$ であった回数の期待値

# 実験

- サイコロ $\omega_1, \omega_2, \omega_3$ の含有率がそれぞれ $\pi_1, \pi_2, \pi_3$ 、偶数になる確率が0.8, 0.6, 0.3とする。サイコロを無造作に一個投げ、出た目の偶奇を観測する。
  - 試行回数10000回( $r_1$ (奇数) = 4746,  $r_2$ (偶数) = 5254)
  - $\theta_{ik}$ は既知、 $\pi_i$ を推定
  - $\pi_i$ の推定にEMアルゴリズムを利用
  - 初期値( $\pi_1, \pi_2, \pi_3$ ) = (0.3, 0.5, 0.2)

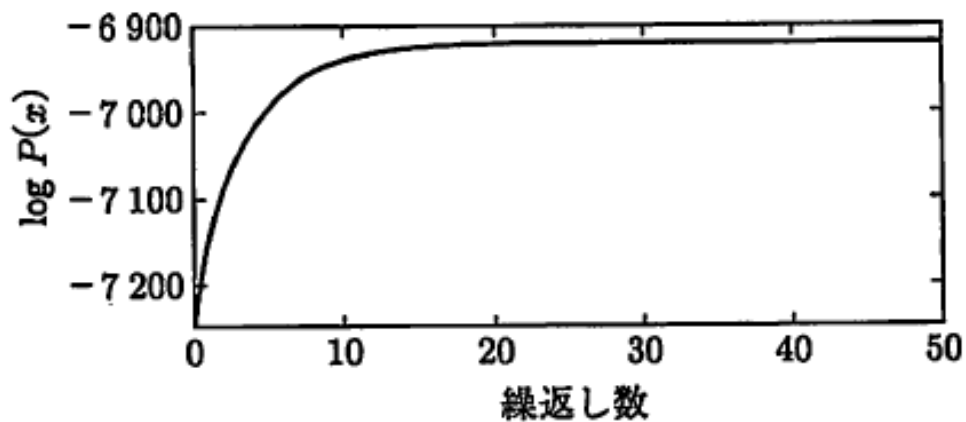


図 5.2 単調増加する  $\log P(x)$

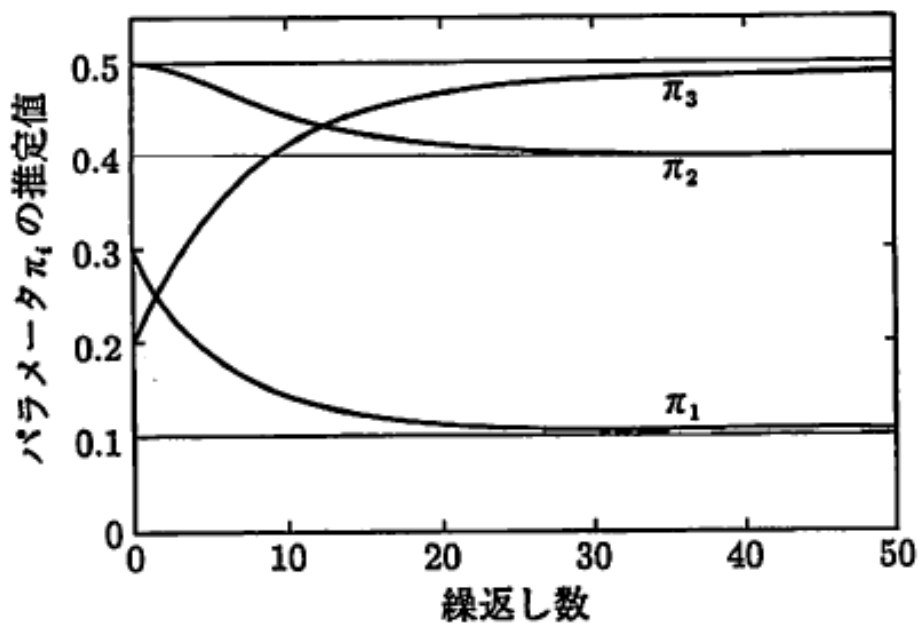


図 5.3 パラメータ  $\pi_i$  の推定実験